



E:Education
for
S:Sustainable
D:Development
O:omagari
m:minami

H.28.8.9 No.5

3年生 国際教養大学訪問

7月8日（金）3年生の国際教育の中心活動である、国際教養大学での外国人留学生との交流活動を行いました。今回は様々な国や地域の環境対策を学ぶことを目的としたため、チェコ、スロバキア、アメリカ、フィリピン、台湾、オーストラリアの6カ国の方との交流となりました。生徒たちは、自分たちの英語が相手に通じるのかが不安な様子でしたが、写真を使っての学校や地域紹介、盆踊りの実演をしていくうちに、和やかで活発な交流活動になりました。生徒たちは、正確な英語でなくても、わかる単語やボディランゲージで相手と意思疎通し、つながることの大切さと楽しさを十分に味わっていました。



今回の交流の目的であった各国の環境対策については、次のような情報を得ることができました。

日本と同様の環境対策

- ・クリーンアップ実施

- ・ゴミの分別回収

- ・節電、節水

日本と異なる環境対策

- ・レジ袋は全て有料

- ・一人暮らしの老人宅のゴミ回収

- ・古い楽器のリサイクル

- ・余剰食品を施設やホームレスに寄付

- ・雨水タンクの設置

- ・国立公園でのポイ捨てに罰金

- ・ヨーロッパでは地震が少ないため、原子力発電が安全で環境にもよいとされている

南中環境会議

6つの班に分かれて収集した情報を紹介し、自分たちの環境対策をより効果的なものにするために、南中環境会議を行いました。そして次のことについて、さらに考えてみる必要性を感じました。

- ・水が豊かである生活に甘えないこと。（シャワーにタイマー利用、雨水タンク利用等）
- ・現在も実施されているが、さらに意識を高めなければならない活動があること。（マイバッグ使用、ゴミ分別、食品を廃棄しない等）・・・意識を高めるために、有料化、罰金などの対策も必要。
- ・一人暮らし老人宅のゴミ収集。（秋田の高齢化を考えると、各地域毎の活動にしていくべき）
- ・余剰食品を施設等に寄付する活動（フードリサイクル）は、食品の有効活用という面で考えればよい活動であるが、受け取る側の立場になって考えると様々な問題点がある。（ただし、現在の5500万トンの食料を輸入し、1800万トンの食料が廃棄されている生活は、今後も持続するとは考えづらいので、早い対策を考えていく必要がある。）
- ・風力発電、地熱発電など、秋田県の自然立地のよさを生かした、再生可能エネルギーの有効活用。

まずは自分の足下からできる活動を進め、地域へ発信していきます。さらに市レベル・県レベルでも生かせる活動につなげられるように、視野を広げ、進んで活動していきたいと思えます。